

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果をふまえた「我が校の強み弱み分析・評価シート」

○調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査対象 第6学年

○調査内容

①教科に関する調査〔国語、算数〕

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査（いずれもCBTシステム（MEXCBT）による回答）

○調査結果

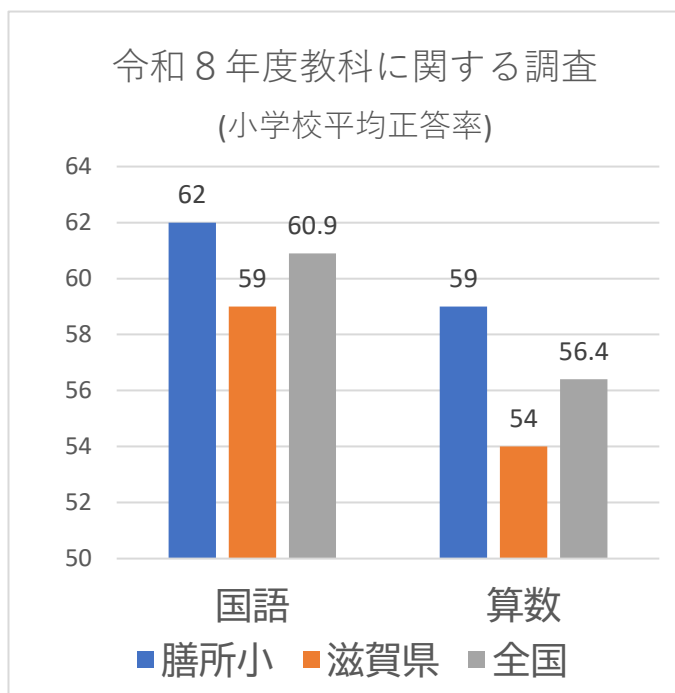
◇概要

- ・国語、算数ともに、滋賀県の平均正答率ならびに全国の平均正答率を上回った。
- ・正答数が0～4問の児童の割合が滋賀県平均ならびに全国平均より少ない。
（国語 11.6%、全国比-3.0ポイント、滋賀県比-4.5ポイント 算数 17%、全国比-1.6ポイント、滋賀県比-0.5ポイント）
- ・質問調査では、英語に関する意識、生活習慣および学びの自己調整に関するスコアが滋賀県基準ならびに全国基準をそれぞれ上回った。

◇強み・弱み

国語

- ・「漢字を文の中で正しく使うこと」や「話や文章の種類とその特徴の理解」といった知識・技能に関する設問において、正答率が高いことや全国平均より1.3ポイント、滋賀県平均より3.8ポイント高いことから、**強み**といえる。
- ・「書くこと」の領域において、「文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、全国の平均正答率ならびに滋賀県の平均正答率を上回ってはいるものの、正答率が35.1%と低く、**弱み**である。解答類型から、「自分の考えの根拠となるよう効果的に引用すること」や「事実や引用したことと自分の考えとの関係を区別して書くこと」に課題が見られる。



算数

- ・算数の学力は、ここ数年同様よい傾向が見られることから、本校児童の**強み**といえる。
- ・滋賀県の平均正答率と全国の平均正答率の差が特に大きい設問において、本校は両方とも上回っている。図形の特徴、十進位取り記数法の仕組み、単位分数など、基礎的な事柄および基本的な概念について正しく理解していることが**強み**である。
- ・「変化と関係」の領域において、「基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること」に関する設問において、平均正答率が33.3%と低く、滋賀県の平均正答率を2.5割上回るものの、**弱み**が見られた。

児童質問

- ・「授業の内容はよく分かりますか」の質問項目に対して肯定的に捉えている児童の割合が、国語88.6%、算数86%と、全国平均(国語81.5%、算数77.5%)および滋賀県平均(国語81.8%、算数77%)を大幅に上回ったことから、**強み**といえる。
- ・「生活習慣」に関する質問において、全国基準ならびに滋賀県基準で5.4と高いスコアを示し、よい傾向が見られることから本校児童の**強み**である。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」の質問項目において、85.9%の児童が肯定的な回答をしており、**強み**といえる。
- ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問項目に95.6%(全国91.4%、滋賀県91.3%)の児童が肯定的な回答をしており、**強み**である。
- ・「ICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問項目に対して「ほぼ毎日」と回答する児童が57%(全国43%、滋賀県33.1%)いるものの、「ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成することができますか」との質問に肯定的な回答をする児童の割合は50.9%(全国74.6%、滋賀県69.8%)に留まり、**弱み**といえる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」に関する質問において、スコアが全国基準ならびに滋賀県基準ともに4.2と肯定的な回答の割合が低く、**弱み**といえる。
- ・学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)および学校が休みの日に1時間以上勉強する児童の割合は40.4%と、全国平均(49.9%)および滋賀県平均(45.9%)を下回っており、家庭学習の時間が少ないことが**弱み**である。
- ・1日の読書時間が10分未満の児童が45.6%と、全国平均(41.4%)および滋賀県平均(43.8%)を上回った。また、学校図書室を利用していない児童の割合は43.9%であり、全国平均25.5%および滋賀県平均26.1%より高い。さらに、地域の図書館の利用に関して「行かない」と回答する児童の割合が72.8%であり、全国平均(51%)および滋賀県平均(51%)と比べて22.8%も高い。これらのことから、読書は本校児童の**弱み**である。

○指導の充実・改善に向けて

- ◇全員が必ず説明し合う活動を取り入れる。
- ◇定着のための習熟、「～慣れる」(書き慣れる・解き慣れる等)を徹底する。
- ◇各教科における基本的な概念の理解・定着を図る。
- ◇学んだことをもとに、自分の考えをまとめ、条件に基づいて表現したり記述したりする場面の設定・指導を充実させる。(「考えて書く」「練り直す」(読み返す、読み合う→確かめる))
- ◇学校司書とも連携・協力し、「読み聞かせ」「朝の読書」「ブックトーク」「すき間読書」および各教科等の学習における並行読書や関連図書の読書等を通じて、読書に親しむ態度を育成し、読書習慣の形成を図る。